

# いちき串木野市温室効果ガスの排出傾向（2018年度）

本市では、地球温暖化対策の推進に関する法律第21条に基づき、2009(平成21)年度に「いちき串木野市地球温暖化防止活動実行計画」を策定し、市で実施する事務事業について、環境配慮の徹底や温室効果ガスの排出抑制などを図ってきました。

本計画は、そうした前計画を踏まえ、「低炭素社会」を築くため、市が率先して取り組むことが責務であるとの認識のもとに、本市が達成すべき目標を定めたものです。

計画の期間は、2019(平成31)年度から2030年度までの12年とし、達成目標については2013(平成25)年度の実績を基準に設定します。また、概ね5年で本計画の改訂を行います。

これまでの市全体の温室効果ガスの変動を見ると、2018年度は2013年度と比較して、約-10.2%、2016年度と比較して、約-0.7%削減されています。

表1 温室効果ガスの排出傾向と削減目標

項目	2013年度 (基準)	2016年度	2018年度	2030年度 (目標)	主な発生源
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	5,792	5,224	5,180	4,018	電気使用、燃料使用、自動車燃料
メタン (CH <sub>4</sub> )	49	46	47	34	自動車走行距離、一般廃棄物焼却量、下水処理量
一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	269	254	260	186	
合計	6,109	5,524	5,486	4,238	
2013年度 (基準年)比	0.0	-9.6	-10.2	-31	
2016年度比			-0.7		

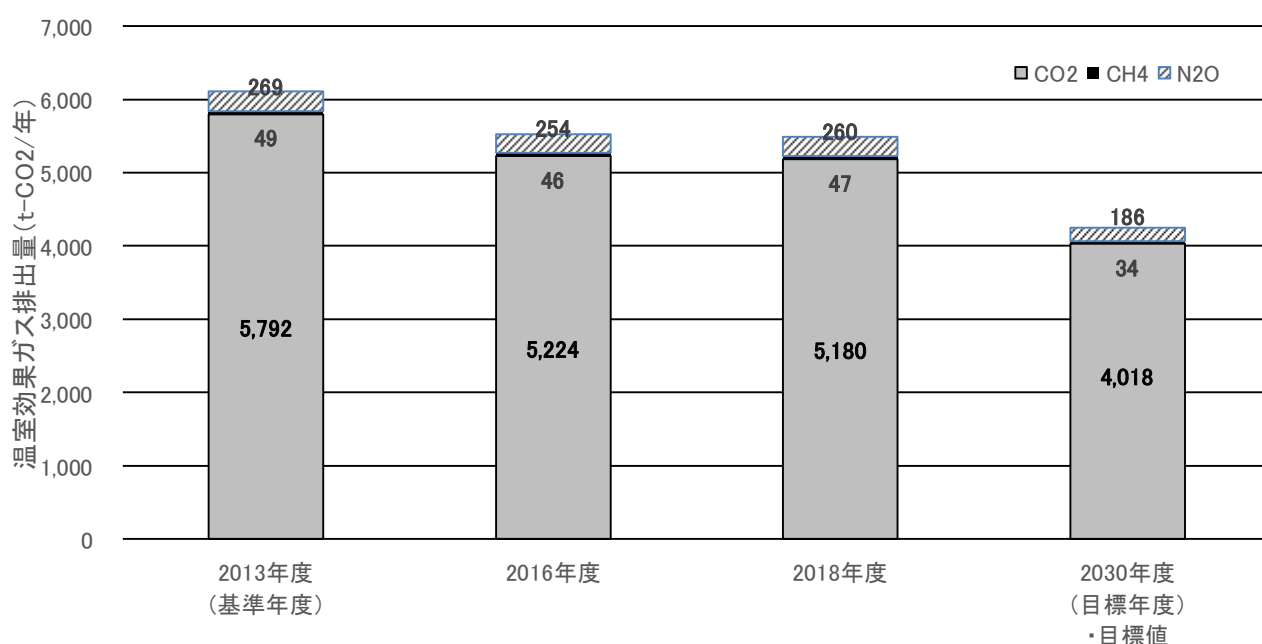


図1 温室効果ガスの傾向と削減目標

## 補足

### (1) 二酸化炭素排出量(CO<sub>2</sub>)

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量は前年度比、約0.8%削減されています。

この要因は、吹上浜荘と市来ふれあい温泉センターの2施設が、平成30年4月に民間譲渡されたことにより、A重油使用量が約32.7%減、LPG使用量が53.5%減していることの影響と考えられます。

一方で、2016年度の推計には含まれていなかった市来最終処分場の灯油使用量が2018年度が含まれているため、全体としては0.84%減に留まっています。

### (2) メタン(CH<sub>4</sub>)・一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)排出量

メタン(CH<sub>4</sub>)排出量は前年度比、約0.5%、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)排出量は約2.3%増加しています。

これは、バッチ燃焼式の一般廃棄物が3.5%増している他、自動車の走行距離が全体的に微増していることによると考えられます。